

第5回：フィリピン・ボホール島のエコツアー

ボホール島は観光で有名なセブ島の東隣りに位置する、面積約 4,100km²（フィリピンで 10 番目の大きさ）、人口約 100 万人の島である。主な産業は農業でそれも自給が中心で、他にこれといった産業も見当たらない。ある調査によれば、農家の平均年間収入は一戸当り 30,000～40,000 ペソ（約 10 万円）程度である。また、支出の半分近く（多い場合は 70%）が食費であり、エンゲル係数が非常に高い。ボホール島へは 99 年 2 月まではマニラからの直行便があったが、航空機のリース契約の関係で現在は運行が中止されており、セブ島からの高速フェリー（所要約 1 時間 30 分）で連絡されている。

ボホール州の首都であるタグビラランは人口約 6～7 万人であるが、市内には大きなスーパーマーケットが 2 つあり、食料品、衣服、おもちゃ、日用雑貨等々、さまざまな商品が並べられている。ここにも確実に大量消費社会への誘いがある。公共交通は軽トラックを改造したミニバスやジプニー、トライスクル（バイクの隣にサイドカーのようなものを付けて客を乗せるタクシー）が主流であるが、最近自動車が増加し、普通乗用車のエアコン付きタクシーも何台か走っている。

一方ボホールは、珊瑚礁や熱帯魚を見ながらスキューバダイビングを楽しめるきれいな海、チョコレートマウンテンと呼ばれる円錐形をした山が 1000 以上も並んでいる奇観、ターシアと呼ばれる世界で一番小さい珍しいサル、鍾乳洞等々の豊かな自然にも恵まれている。最近では、このような豊かな自然資源を観光資源としたエコツアーを観光の目玉にしようという動きがある。前述したように、現金収入の途が農業しかないため、新たな収入源としても期待されている。またそのために、これらの自然を重要な資源と考え、持続的に利用していくために環境を保全しようという動きも出始めている。貴重な収入源になるというのが直接的な理由とはいえ、地域の自然環境を守っていこうという動きが地元から沸き上がってくること自体は歓迎すべきことだろう。ただ、エコツアーといっても、現状は観光客に既存の観光資源をただ見せているだけである。今後の課題として、きちんとガイドのできるインストラクターの教育や養成も必要であろう。

隣のセブ島では、観光客目当ての高級ホテルやゴルフ場が乱立しているが、観光施設があるセブ市の他は貧しい農村が大半である。ボホールにはセブ島に対する対抗心も強いようで、セブ島の「乱開発」を反面教師として横目で見ながら、セブ島との違いを意識しつつ、独自の観光開発を進めていける素地があるのではないかと感じた。



ボホール島の観光資源イメージ図



珍猿・ターシア